

宮古 B・p 研究開発も採択

総合事務局経済産業部

地域新生コンソーシアム研究開発事業

【那覇支局】沖縄総合事務局経済産業部は五月三十一日、二〇〇六年

度地域新生コンソーシアム研究開発事業及び地域新規産業創造技術開発費補助事業」の採択事業を発表した。県内からは四事業が採択され、宮古ビデンス・ピローサ(宮古B・p)を用いた特定保健用食品の研究開発事業も対象となった。

経済産業省は、地域において事業化に直結する技術開発を促進することにより、新産業の創出を促し、地域経済の再生を目的として提案公募型の地域技術開発事業として同事業を実施している。○六年度予算において、新規採択に係る公募を行ったところ、沖縄総合事務局管内では十八件の応募があり、審査の結果、宮古B・pの研究開発事業を含む四事業が採

択となった。

宮古B・pの研究開発の管理法人(委託先)は、財団法人南西地域産業活性化センター(那覇市)で、プロジェクトリーダーは安仁屋洋子琉球大学大学院教授。参加メンバーは▽琉球大学▽星薬科大学▽うるばな宮古▽武蔵野免疫研究所。

プロジェクトの概要は、高血糖症、花粉症に対する宮古B・pの有効性が示唆されてきたことから、この有用性を「ヒト」での試験で確認することに重点を置き、同時にその作用物質の特定、作用機序の解明を図り、真に健康生活に役立つ成果を確立し、新しい産業育成を目指すとしている。

(垣花尚)